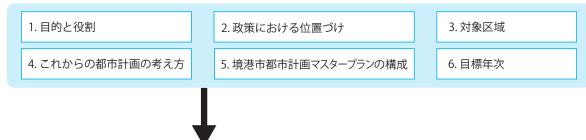


第2章 境港市の現況

第1章 都市計画マスタープランについて



第2章 境港市の現況 1. 概況 2. 自然 3. 歴史 4. 都市基盤 5. 産業 6. 生活基盤 公共施設等 店舗、商業施設 施設分布 医療施設 文化・社会教育施設 生活道路 公共交通 公園 • 緑地 防災 空き地・空き家

第2章以降に使用する地図は、都市計画図修正業務(2010年(H22年))のDMデータ、および国土地理院基盤地図情報の最新データ(2020年(R2年)、2021年(R3年))を使用しています。また、地図上で使用するデータは、国土数値情報(国土交通省)を基本とし、これまでの市の蓄積データも踏まえ、データの加工・編集等を行っています。

第2章 境港市の現況

1. 概況

境港市は、鳥取県北西部にある弓ヶ浜半島の北端に位置し、南側は米子市に接しています。 他3方は海に開けており、東側は日本海、西側は中海に面し、北側はこれをつなぐ境水道を 挟んで島根半島に隣接しています。県庁所在地である鳥取市は境港市から約 90km の距離 にあります。

境港市が位置する弓ヶ浜半島は、中海と美保湾を分ける長さ 17km、幅 4km の砂州でで きた半島で、標高 1.5m 内外の平坦な砂地となっています。自然の川がないことから、日野 川を源流とする農業用水路「米川」が中央部を縦貫し、田畑を灌漑しています。

臨海部では埋立てや干拓が行われ、美保湾等に面した工業団地である竹内工業団地や昭 和地区工業団地、中海に面し特産の白ネギ等を生産している中海干拓地などが造成されまし た。



本市は日本海沿岸地域の拠点圏域として米子境港都市計画区域の一部に位置付けられて います。本市の持つ特性(重要港湾「境港」、特定第三種漁港「境漁港」、国際空港「米子 鬼太郎空港」の3つの港)・魅力を活かした施策を進めています。

本市の将来都市像は、砂漠のオアシスのように人やモノ・情報が集まり交流する「環日本 海オアシス都市」を標榜しています。

また、カニやマグロをはじめ全国有数の水産物の水揚げ量を誇るほか、多くの観光客で にぎわう「水木しげるロード」の強みを活かし、「さかなと鬼太郎のまち」をキャッチフレー ズとして情報発信に取り組んでいます。

境港市は鳥取県・島根県のちょうど真ん中に位置し、隣接する鳥取県米子市、島根県松江 市・安来市・出雲市と、鳥取県西部の7町村を併せた「中海・宍道湖・大山圏域」は、人 口規模約65万人の日本海側でも有数の経済圏域を形成しています。

境港は、この圏域の物流の玄関口として、江戸時代には北前船の寄港地として活用され、 開港外貿易港の指定は 1896 年 (M29 年) と神戸税関管内では神戸港に次いで古い港です。 戦後 1951 年(S26 年) に重要港湾の指定を受けてからは、新産業都市指定(1966 年(S41 年))、輸入促進地域 (FAZ) 指定 (1995年 (H7年)) を経て、2011年 (H23年) にはリサイ クルポートに指定され、日本海側拠点港(国際海上コンテナ・外航クルーズ・原木)にも選 定されています。港湾施設については、昭和南地区国際コンテナターミナル (2004年(H16 年))、中野地区国際物流ターミナル (2016年 (H28年))、竹内南地区貨客船ターミナル (2020 年(R2年)) と着実に機能強化が進められてきました。

現在の境港における年間取扱貨物量は約350万トン(2020年(R2年)は約297万トン)、 コンテナ取扱量は約2万6千 TEU(2020年(R2年)は約2万2千 TEU)で、主要な貨物は 木材チップや原木、紙パルプ等となっています。2020年(R2年)には、境夢みなとターミ ナルが供用開始され、さらなる物流・人流の拡大が期待されています。また、境漁港の高 度衛生管理型市場の整備や、水木しげるロードの大規模リニューアルも実施されており、本 市の特徴を活かした魅力と活気にあふれる広域交流都市を目指しています。



現在の DID (人口集中地区) の面積は6.76kmです。1960年 (S35年) から3.4倍に増加し ており、市全域の面積の 23.3% となっています。

また、境港市の人口は 34,174人(国勢調査 2015年 (H27年)) であり、市街化区 域人口は 25,525 人、そのうち DID 人口は 16,491 人で総人口 の 48.3%となっています。(国 勢調査 2020 年 (R2 年) での境 港市の人口は32,740人(2021 年(R3年)11月30日公表))

2. 自然

境港市は、美保湾、中海、境水道という3つの異なる水域に開かれ、これらの海および港によって、中海・宍道湖・大山圏域全体の交易・交流を支える本市の特徴が形作られています。

また、漁業を基幹とする産業構造や、水域に沿って市街地が形成されていることからも、 本市の都市形成には、海と港が大きく関係しています。

本市は、日野川河口から流れる土砂の堆積によって形成された砂州構造で、市域の大半が厚い砂層で構成されています。

市域の平均標高は 1.5m で、米子市の 19.5m、松江市の 59.0 mと比べても極めて低く、また山や丘、坂道の多さなどを示す平均傾斜度は 0.016 度(全国平均 0.4 度)となっており、標高が低く、平坦なことが本市の地形の特徴といえます。

約35 kmにわたる市域の水際線は、その多くが人工護岸として整備されており、自然の 砂浜は市内南東部の弓ヶ浜を残すのみとなっています。

この弓ヶ浜は、米子市の日野川河口まで約17 kmにわたり続いており、白砂青松の砂浜は、市民に憩いをもたらす風景であるとともに、ヨット等のマリンレジャーやビーチスポーツ、サイクリング等のアクティビティにも欠かせない貴重な資源となっています。

市内の水路は、斐伊川水系にあたる中海と境水道を除けば、米川・深田川・五ヶ井手川などの農業用排水路が中心であり、これらは雨水排水路としての機能も有しています。

耕作地や市街地を流れるこれらの水路は、身近な水辺空間のひとつであり、鳥類や昆虫などの生態系を維持する大切な自然環境のひとつにもなっています。

また弓ヶ浜半島には、「淡水レンズ」によって豊富な地下水が存在することが確認されており、江戸時代には綿(伯州綿)の一大産地となったほか、現在でも白ネギやサツマイモ等の農業経営が続けられています。

市内の森林面積は、総面積 2,911ha のうち 37ha (1.3%) となっており、主には、JR 境線沿いの余子地区の雑木林や、遊休農地が山林化した箇所が点在している状態です。全国の森林面積の平均 66% と比較すると、本市は極めて森林が少ない状況にあります。

その一方、都市計画公園である「市民の森」「竜ヶ山公園」「中浜緑地」「境台場公園」や、「弥生緑地」「夢みなと公園」などの港湾施設の緑地を含めれば、市民一人当たりの森林面積は約12㎡となっており、こうした公園・緑地によって緑化が進められている状況です。

最後に、白砂青松の弓ヶ浜に代表される自然景観や、都市計画道路外港外江線・都市計画道路米子駅境線沿いのケヤキ並木等は、本市の環境の良さを象徴する風景であり、自然環境の維持と都市施設整備が調和するまちづくりを進めていくことが大切です。

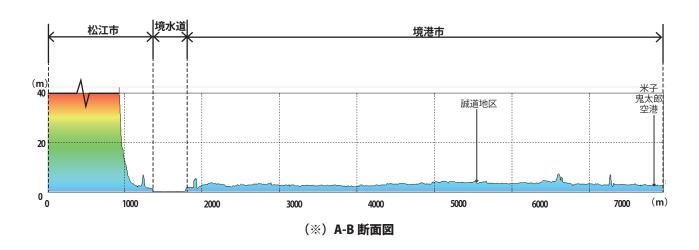
港湾データの比較

・広島市と境港市の干満差の違い:2021 年 7 月の潮位表による比較(出典:気象庁) 広島市(広島市 南区 宇品海岸 2 丁目) 干満差の平均 218cm 最大の干満差 373cm 境港市(境港市境港) 干満差の平均 13cm 最大の干満差 41cm

各市区町村の居住地における平均標高(出典:東京大学空間情報科学研究センター)

境港市 1.5 m 米子市 19.5 m 松江市 59.0 m

安来市 34.5 m 出雲市 73.1 m



昭和北緑地 境水道 弥生緑地 美保湾 中野ふ頭内緑地 竹内休息緑地 中海 中野緑地公園 ケヤキの配置 夢みなと緑地 境港公共マリーナ緑地 弓ヶ浜海岸 √ 等高線 (5 m間隔) 中浜緑地 公共空地 (郑市計画基礎調查 H29) 山林 (都市計画基礎調査 H29) -- 断面線

11

山林、公共空地の分布と標高(※)

3. 歴史

本市の市域は弓ヶ浜半島の先端部にあたり、もとは島であった縄文・弥生時代からの古い 居住歴をもっています。この弓ヶ浜は「夜見島(よみのしま)(現在の弓ヶ浜)」として「出 雲国風土記」にも記されています。

また、本市は北前船など江戸時代中期(近世)以降の海上交通の要衝であり、明治以降 も国際貿易の場として発展してきました。

昭和に入ってからの市街地の変遷は、次のとおりです。1926 年(T15 年)の地形図によれば、当時の境港の市街地は、現在の境地区のほか、外江西灘神社周辺(伯耆国風土記に見える「余戸里」と同定されています)、渡漁港周辺といった臨海部と、境港から米子への旧街道沿線にまとまっており、さらに枕川と米川沿線に小規模な集落が連たんしていました。その後の市街地の展開は、従来からあった市街地の膨張と美保湾および中海の埋め立てによる土地の拡大によって進み、結果的に中央部の農地を残して市街地・集落が取り囲み、その外側に計画市街地としての工業・流通拠点が配置されるという現在の土地利用構造を作りだしました。その過程で、境地区での二度の大火、1939 年(S14 年)海軍航空隊飛行場の設置および1970 年(S45 年)滑走路付替工事に伴う中浜地区の集落移転、1968 年(S43 年)に開通した外浜産業道路(国道431 号)による市街地の東進などを経て現在に至っています。

JR 境線は、1902 年(M35 年)に山陰初の鉄道として境駅〜御来屋駅間が開業したもので、山陰鉄道発祥の路線となっています。その後いくつかの新駅設置を経て、2008 年(H20 年)には米子空港の滑走路拡張に伴い大篠津町駅〜中浜駅間の経路が変更されて現在に至っています。また、1993 年(H5 年)に「鬼太郎列車」の運行が始まり、その後、各駅に全国各地の妖怪をテーマとした装飾を施すなど、観光路線化が進められています。

文化財では、国指定史跡として鳥取藩台場跡境台場跡が、登録有形文化財として面谷家住宅店舗兼主屋・新座敷・道具蔵・旧砂糖蔵が、いずれも花町に、また、末広町には登録有形文化財として植田家住宅主屋・離れがあります。また県指定文化財(建造物・名勝)として1833年(天保4年)に建てられた主屋を持つ大規模民家である「庄司家住宅・庭園」が渡町にあります。いずれも近世後期の境港の繁栄を物語る貴重な歴史資源です。

下図は、アンケート「まちづくりに関する 100 の質問」において、境港市や自分の住む町 内で「自慢できるところ、いいと思っているところ」、「市外から来た人を連れていきたいよい ところ」の回答で得られた場所を地図上にプロットしたものです。指定文化財のほか、寺社 仏閣や景観など、市民に親しまれている歴史遺構等が市内各地区にあることがわかります。

境港市や自分の住む町内で「自慢できるところ、いいと思っているところ」、「市外から来た人 を連れていきたいよいところ」(アンケート結果より抜粋)

千代むすび酒造	サイクリングコース	上道神社
水木しげるロード	夢みなと公園	中野港漁村市
台場公園	境港 夕凪の湯 御宿 野乃	竜ヶ山公園
江島大橋	大漁市場なかうら	天皇道路沿いのケヤキ
境水道大橋	境港公共マリーナ	おさかなロード
境港水産物直売センター	境港水産物地方卸売市場	市民の森
弓ヶ浜海岸	境港さかなセンター	中浜サントピア
夢みなとタワー	正福寺	境港市民交流センター
境夢みなとターミナル	大港神社	夕日ヶ丘メモリアルパーク



4. 都市基盤

港湾・漁港・空港の3つの港がある境港市は、中海・宍道湖・大山圏域の広大な背後圏を控えた物流・人流のネットワーク拠点の機能を有しています。また、国際定期航空路線や、隠岐諸島への定期フェリー、国際物流ターミナル、国際コンテナターミナルなどの空と海の玄関口でもあり、国道431号や都市計画道路(米子駅境線・外港外江線・産業中央線等)によって市内の幹線道路ネットワークが形成されています。

一方、市内は高速道路に接続していないため、至近の米子インターチェンジまで約 20km (40 分以上) の距離があり、こうした 3 つの港の機能を最大限に発揮するためにも、山陽・関西方面とのつながりに取り組むとともに、中海・宍道湖圏域の一体的発展を促進し、山陽方面や関西方面に向けた物流の効率化を図る必要があります。

境港駅と米子駅をつなぐ JR 境線は、通勤や通学のほか、鬼太郎列車の運行をはじめ観 光路線化の取り組みにより、地域住民のほか観光客にも利用されています。ただし、市内の 踏切遮断中は、道路の通行が止まるため、交通渋滞が発生するなどの課題が生じています。 市内には2ヵ所(外港外江線・美保空港線)が高架になっていますが、日常の移動に加え、 松江市方面への物流や、竹内工業団地の「境夢みなとターミナル」を利用するクルーズ客 船の乗客の二次交通など、道路交通の円滑化も検討する必要があります。



圏域を結ぶ8の字ルートのイメージ(参考:中海・宍道湖・大山圏域市町会資料)

上水道は、日野川伏流水を水源とし、市内全域が米子市水道局によって給水されています。 2020年度(R2年度)の境港市の給水人口は32,724人、普及率は97.9%となっています(2020年度(R2年度)版水道事業年報・米子市水道局)。

公共下水道は事業計画により整備が進んでいます。公共下水道の処理計画区域が市街化 調整区域を含めて、ほぼ市街地全域をカバーしており、2021 年(R3 年)3 月 31 日時点で、 全体計画 1,743ha のうち、整備済み面積は 1,039.9ha、処理可能人口の普及率は 82.0%となっています。

